



# 平成29年3月期 第2四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

平成28年11月2日

上場会社名 参天製薬株式会社  
 コード番号 4536 URL <http://www.santen.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 黒川 明

問合せ先責任者 (役職名) コーポレート・コミュニケーショングループ (氏名) クリストファー・ホフマン TEL 06-4802-9360

四半期報告書提出予定日 平成28年11月4日 配当支払開始予定日 平成28年11月30日

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満四捨五入)

## 1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績 (平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前四半期利益		四半期利益		親会社の所有者に 帰属する四半期利益		四半期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	97,829	△0.0	18,787	△71.3	17,027	△73.9	12,601	△71.1	12,601	△71.1	2,339	△94.6
28年3月期第2四半期	97,873	36.1	65,385	359.3	65,335	349.4	43,657	347.3	43,657	347.3	43,507	285.4

	基本的1株当たり 四半期利益		希薄化後1株当たり 四半期利益	
	円	銭	円	銭
29年3月期第2四半期	30	44	30	32
28年3月期第2四半期	105	55	105	06

コアベースでの連結経営成績は次のとおりです。上述のIFRSによる数値からコアベースの数値への調整内容は、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1)経営成績に関する説明①当第2四半期連結累計期間の業績の状況(イ)コアベース」をご覧ください。

	売上収益		コア営業利益		コア四半期利益		基本的1株当たり コア四半期利益		希薄化後1株当たり コア四半期利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭	円	銭
29年3月期第2四半期	97,829	△0.0	22,464	△8.5	16,712	2.0	40	37	40	22
28年3月期第2四半期	97,873	36.1	24,541	60.4	16,392	61.7	39	63	39	45

## (2) 連結財政状態

	資産合計		資本合計		親会社の所有者に 帰属する持分		親会社所有者 帰属持分比率		1株当たり親会社 所有者帰属持分	
	百万円		百万円		百万円		%	円	銭	
29年3月期第2四半期	323,555		255,065		255,065		78.8	617	90	
28年3月期	355,399		260,009		260,009		73.2	627	78	

## 2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
28年3月期	—	12.00	—	13.00	25.00	
29年3月期	—	13.00				
29年3月期(予想)			—	13.00	26.00	

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

## 3. 平成29年3月期の連結業績予想 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前当期利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	200,000	2.4	36,300	△54.7	36,500	△54.1	25,300	△52.6	25,300	△52.6	61	09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

コアベースでの連結業績予想は次のとおりです。上述のIFRSによる数値からコアベースの数値への調整内容は、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1)経営成績に関する説明①当第2四半期連結累計期間の業績の状況(イ)コアベース」をご覧ください。

	売上収益		コア営業利益		コア当期利益		コアEPS	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	200,000	2.4	44,100	2.3	30,200	3.5	72	92

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 1社 （社名）重慶参天科瑞製薬有限公司、除外 1社

（注）詳細は、添付資料P6「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、第1四半期連結会計期間において、参天ビジネスサービス株式会社、参天アイケア株式会社および参天製薬（香港）有限公司を新たに設立したため、連結の範囲に含めています。また、当第2四半期連結会計期間において、InnFocus, Inc. を買収したため、連結の範囲に含めています。

- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無

（注）詳細は、添付資料P6「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更」をご覧ください。

- (3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期2Q	414,251,515株	28年3月期	414,191,515株
② 期末自己株式数	29年3月期2Q	1,454,571株	28年3月期	22,369株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期2Q	413,976,129株	28年3月期2Q	413,596,490株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。実際の業績は、事業環境変化、新薬の承認時期、為替レート変動、医薬品行政の動向など様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法）

当社は、平成28年11月4日（金）に証券アナリスト、機関投資家向けの第2四半期決算説明会を開催する予定です。この説明会で使用する資料は、開催後当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更	6
3. 要約四半期連結財務諸表	7
(1) 要約四半期連結純損益及びその他の包括利益計算書	7
(2) 要約四半期連結財政状態計算書	8
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	10
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(セグメント情報等)	13
(子会社株式の取得による支出)	14
(売却目的で保有する処分グループ)	14
(企業結合)	15
(重要な後発事象)	16
4. 連結参考資料	17
(1) 主要製品売上収益	17
(2) 医薬品開発状況	18
(3) 設備投資、減価償却費及び償却費、製品に係る無形資産償却費ならびに研究開発費	20

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

① 当第2四半期連結累計期間の業績の状況

(ア) IFRS (フル) ベース

当第2四半期の国内医療用眼科薬市場は、薬価改定の影響を受けつつも、緑内障治療剤および抗アレルギー治療剤を中心に堅調に推移しました。海外医療用眼科薬市場も、EMEA（ヨーロッパ、中東およびアフリカ）・アジアで堅調に推移しています。また、国内一般用眼科薬市場は、前年同期と比べ拡大しています。

このような市場環境の下、当第2四半期の業績は、次のとおりとなりました。

(単位：百万円)

	前第2四半期	当第2四半期	対前年同期増減率
売上収益	97,873	97,829	△0.0%
営業利益	65,385	18,787	△71.3%
税引前四半期利益	65,335	17,027	△73.9%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	43,657	12,601	△71.1%

[売上収益]

前年同期と比べほぼ横ばいの978億2千9百万円となりました。

主力の国内医療用医薬品事業において継続的に売上伸長し、EMEA・アジアにおいて当社製品が順調に市場浸透していますが、円高の影響を受けました。

[営業利益]

売上総利益は、前年同期と比べ微減の609億9千3百万円となりました。売上原価率が37.7%でした。

販売費及び一般管理費は、事業基盤強化と新製品価値の最大化のための費用が先行したこともあり、前年同期と比べ4.2%増加の287億3千8百万円、研究開発費は103億4百万円となりました。製品に係る無形資産償却費は、31億6千9百万円となりましたが、これは主に、米メルク社から2014年に譲受けた眼科製品に関する無形資産、ならびに昨年より欧州で発売を開始した「アイケルビス」に関する無形資産の償却によるものです。

その他の収益は2億1千6百万円、その他の費用は2億1千1百万円となりました。

これらにより、営業利益は187億8千7百万円となりました。前期に抗リウマチ薬事業のあゆみ製薬株式会社への承継に伴う一時的な収益が444億7千7百万円発生したこともあり、当期の営業利益は前年同期と比べ71.3%の減少となりました。

[税引前四半期利益]

8月のInnFocus, Inc. (以下、「InnFocus社」) 買収に伴う海外への送金および保有する外貨に対する評価損により金融費用が増加したこと、また、上述のとおり、前期の抗リウマチ薬事業の承継に伴うその他の収益の影響もあり、当期の税引前四半期利益は前年同期と比べ73.9%減少し、170億2千7百万円となりました。

[親会社の所有者に帰属する四半期利益]

親会社の所有者に帰属する四半期利益は前年同期と比べ71.1%減少し、126億1百万円となりました。売上収益に対するその比率は、12.9%となりました。

なお、事業承継に伴う収益や一時的な金融費用の増加など、一過性の損益による影響を控除した業績とその対前年同期増減率については、コアベースの業績として次に記載しています。

(イ) コアベース

参天製薬グループではIFRS適用を機に、上述のIFRSによる業績（「IFRS（フル）ベース」）から一部の収益、費用を控除した「コアベース」での財務情報を経常的な業績を示す指標として、併せて開示します。IFRS（フル）ベースによる業績からコアベースでの業績への調整において控除する収益、費用は次のとおりです。

- ・製品に係る無形資産償却費
- ・その他の収益
- ・その他の費用
- ・金融収益
- ・金融費用
- ・販売費及び一般管理費のうち企業買収に係る一過性費用

これらの項目に係る法人所得税費用を調整し、コアベースでの四半期利益を算出しています。

当第2四半期のコアベースでの業績は、以下のとおりとなりました。なお、（ ）内の数値はIFRS（フル）ベースでの業績です。

(単位：百万円)

コアベース	前第2四半期		当第2四半期		対前年同期増減率	
		(フルベース)		(フルベース)		(フルベース)
売上収益	97,873	(97,873)	97,829	(97,829)	△0.0%	(△0.0%)
営業利益	24,541	(65,385)	22,464	(18,787)	△8.5%	(△71.3%)
四半期利益	16,392	(43,657)	16,712	(12,601)	2.0%	(△71.1%)

② 当第2四半期連結累計期間のセグメント別業績の状況

参天製薬グループは、医薬品事業とその他の事業セグメントから構成されます。売上収益の多くは医薬品事業によっており、その全売上収益に占める比率は、98.4%になります。

医薬品事業の売上収益は、前年同期と比べほぼ横ばいの963億2百万円、営業利益は190億1千3百万円となりました。その他の事業の売上収益は、15億2千8百万円で前年同期と比べ14.5%、1億9千4百万円増加しました。営業損失は2億2千6百万円となりました。

(単位：百万円)

	国内		海外		合計	
	金額	対前年同期増減率	金額	対前年同期増減率	金額	対前年同期増減率
医薬品事業	70,354	1.8%	25,948	△5.4%	96,302	△0.2%
医療用医薬品	64,322	0.1%	25,893	△5.5%	90,215	△1.5%
うち眼科薬	64,143	6.2%	25,108	4.0%	89,251	5.6%
うちその他医薬品	180	△48.7%	785	△75.8%	965	△73.2%
一般用医薬品	6,032	24.0%	55	32.4%	6,087	24.1%
その他の事業	1,455	11.9%	72	116.7%	1,528	14.5%
医療機器	1,259	9.8%	13	△61.1%	1,272	7.8%
その他	197	27.5%	59	—	256	66.1%
合計	71,809	2.0%	26,020	△5.3%	97,829	△0.0%

(注) 各セグメントの売上収益は、外部顧客に対する売上収益を表しています。

[医薬品事業]

(医療用医薬品)

<眼科薬>

[国内]

国内医療用眼科薬の売上収益は、641億4千3百万円となりました。

薬価改定の影響がありましたが、医療施設・医療関係者のそれぞれのニーズを的確に捉えた医薬情報提供活動を展開することにより、前年同期と比べ6.2%増加しています。

緑内障・高眼圧症においては、従来からの主力製品の「タプロス点眼液」、「コソプト配合点眼液」に加えて「タプコム配合点眼液」にも注力した結果、それぞれの製品の売上収益は、「タプロス点眼液」は前年同期と比べ7.5%増加し49億6千1百万円、「コソプト配合点眼液」は前年同期と比べ3.2%増加し58億8千7百万円、「タプコム配合点眼液」は前年同期と比べ99.0%増加し11億1千6百万円となりました。

ドライアイ（眼球乾燥症候群）などに伴う角結膜上皮障害治療剤領域においては、「ジクアス点眼液」の売上収益は、前年同期と比べ27.7%増加し54億3百万円、「ヒアレイ点眼液」の売上収益は、前年同期と比べ17.4%減少し、62億5千6百万円となりました。

抗アレルギー点眼剤領域においては、「アレジオン点眼液」の売上収益は、前年同期と比べ48.2%増加し、40億6千6百万円となりました。

網膜疾患治療剤領域においては、「アイリーア硝子体内注射液」の売上収益は、滲出型加齢黄斑変性を含め適応を取得した各疾患への医薬情報提供活動の促進により、前年同期と比べ16.6%増加し、228億2千万円となりました。

[海外]

2014年の米メルク社からの眼科製品の譲受け以降、当該製品を含めた自社製品の市場浸透に努めた結果、海外における売上収益は、大幅な円高の影響を受けたものの、円換算ベースで前年同期と比べ4.0%増加し、251億8百万円となりました。

EMEAにおける売上収益は、円換算ベースで前年同期と比べ12.8%増加し、130億4千3百万円となりました。医薬情報提供などの普及促進活動に注力し、緑内障・高眼圧症治療剤「タフロタン」、「サフルタン」、「コソプト」、「トルソプト」が市場に浸透しています。

アジアにおける売上収益は、現地通貨ベースでは大きく成長しましたが、円高の影響を受けたことにより円換算ベースでは前年同期と比べ4.2%減少し、119億9千9百万円となりました。主力品の普及促進活動の展開により、中国を中心として、当社製品の市場浸透が進んでいます。

<その他医薬品>

その他医薬品には、技術提携（導出）契約に基づく収入、受託製造等が含まれます。また、米メルク社の眼科製品の譲受けに関し、関連する法制上の手続きが完了し、各国・地域で参天製薬グループの製品としての販売が開始されるまでの間、米メルク社側に生じた利益の一部が契約に基づいて当社に還元されます。この収入が4億3百万円あったことにより、その他医薬品の売上収益は、9億6千5百万円となりました。

(一般用医薬品)

インバウンド需要の取り込みに加えて、国内に向けた販売促進活動にも注力した結果、一般用医薬品の売上収益は前年同期と比べ24.1%増加し、60億8千7百万円となりました。

[その他の事業]

(医療機器)

高屈折率の亚克力素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズ「エタニティ」シリーズの普及促進活動に引き続いて注力した結果、医療機器の売上収益は前年同期と比べ7.8%増加し、12億7千2百万円となりました。

(その他)

その他の売上収益は、株式会社クレール（連結子会社）での無塵・無菌服のクリーニング業によるものとサプリメント製品の販売によるもので、2億5千6百万円となりました。

### ③ 研究開発活動

参天製薬グループは、中長期的な成長の源泉として新製品の創製を重視しており、眼科薬を中心とした積極的な研究開発活動を進めています。

緑内障・高眼圧症領域において、プロスタグランジンF<sub>2α</sub>誘導体DE-085（一般名：タフルプロスト）は、2008年12月より日本で「タプロス点眼液」として発売しました。海外では欧州とアジアで自社販売しており、2016年3月、中国で発売しました。配合剤DE-111（一般名：タフルプロスト/チモロールマレイン酸塩）は、2014年11月に日本で「タプコム配合点眼液」として販売しており、韓国でも2016年4月に発売しました。欧州では、2014年10月に販売承認を取得し、「TAPTIQOM」（タプティコム）として2015年1月より順次、各国にて発売しています。また、アジアでも順次販売承認を申請し、2016年3月以降アジア各国で販売承認を取得しています。EP2受容体作動薬DE-117（一般名：omidene pag isopropyl）は、米国で後期第Ⅱ相試験を終了しました。日本では2015年12月に後期第Ⅱ/Ⅲ相試験を開始しました。韓国、アジアでは第Ⅲ相試験を準備中です。2016年3月に小野薬品工業株式会社より導入しグローバルの開発の権利を取得しましたFP/EP3受容体デュアル作動薬DE-126（一般名：sepetaprost）は、米国にて後期第Ⅱ相試験を準備中です。2016年8月に買収したInnFocus社の緑内障用デバイスInnFocus MicroShunt（DE-128）は、欧州におけるCEマークの承認を取得しており、米国および欧州にて、FDA承認取得に向け第Ⅲ相試験を実施しています。

角結膜疾患（ドライアイを含む）領域において、DE-089（一般名：ジクアホソルナトリウム）は、2010年12月より日本で「ジクアス点眼液」として発売しました。また、韓国では2013年10月に発売しました。中国では輸入医薬品承認を申請中です。2016年2月よりアジアで順次発売しています。Cyclokot（開発品名：シクロカット、一般名：シクロスポリン、製品名：「Ikervis」（アイケルビス））は、2015年7月に、成人患者において人工涙液等で効果が不十分なドライアイに伴う重度の角膜炎を適応症として、ドイツにて発売、順次、欧州各国にて発売しています。アジアでは順次販売承認を申請しています。韓国において2015年12月に販売承認を申請しました。春季カタルを適応症とするVekacia（開発品名：ベカシア、一般名：シクロスポリン）は、2016年3月に欧州で第Ⅲ相試験を終了しました。

網膜・ぶどう膜疾患領域において、ぶどう膜炎を適応症とするDE-109（一般名：シロリムス）は、欧州にて2016年5月に販売承認申請を一旦取り下げました。今後、再申請を予定しています。また、米国で2016年9月に第Ⅲ相試験SAKURA Study2の最終被験者の来院（LP0: Last patient out）が完了しました。DE-120（一般名：未定）は、滲出型加齢黄斑変性を対象に前期第Ⅱ相試験を米国で実施中です。DE-122（一般名：未定）は、滲出型加齢黄斑変性を対象に第Ⅰ/Ⅱ相試験を米国で実施中です。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産、資本及び負債の状況

当第2四半期末の資産は、前期末と比べ318億4千5百万円減少し、3,235億5千5百万円となりました。これは法人所得税等の支払による現金及び現金同等物の減少などによるものです。

資本は、前期末と比べ49億4千4百万円減少し、2,550億6千5百万円となりました。これは利益剰余金の増加などに加えて、その他の資本の構成要素の減少および自己株式の増加などによるものです。

負債は、前期末と比べ269億1百万円減少し、684億8千9百万円となりました。これは法人税等の支払による未払法人所得税等およびその他の金融負債の減少などによるものです。

以上の結果、親会社所有者帰属持分比率は、前期末と比べ5.6ポイント増加し、78.8%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期の営業活動によるキャッシュ・フローは、50億4千9百万円の支出（前年同期は、123億8千5百万円の収入）となりました。これは四半期利益が126億1百万円などありましたが、法人所得税の支払いが204億8千万円あったことなどによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、237億5百万円の支出（前年同期は、405億1千2百万円の収入）となりました。これはInnFocus社の買収に伴う子会社株式の取得による支出が190億4千7百万円、無形資産の取得による支出が27億5千1百万円および有形固定資産の取得による支出が20億6千6百万円あったことなどによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、92億3千9百万円の支出（前年同期は、105億2千9百万円の支出）となりました。これは長期借入れによる収入が30億円ありましたが、配当金の支払いが53億8千5百万円、長期借入金の返済による支出が48億2千5百万円および自己株式の取得による支出が20億7千3百万円あったことなどによるものです。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第2四半期末残高は、前期末と比べ414億5千5百万円減少し、583億4千3百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期の業績は、概ね予定通り推移しており、2016年8月2日に公表した連結業績予想は修正していません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当社は、2016年8月22日に中国重慶市に以下の合弁会社を設立し、当該合弁会社は当社の連結子会社となりました。当該合弁会社の資本金は、当社資本金の10%以上に相当し、特定子会社に該当します。

- |             |   |
|-------------|---|
| ① 名称        | 重慶参天科瑞製薬有限公司  |
| ② 所在地       | 中国 重慶市  |
| ③ 代表者の役職・氏名 | 董事長 Shaohong Li<br>(重慶科瑞製薬(集団)有限公司董事長)<br>董事 兼 総経理 Ye Liu<br>(当社執行役員 参天製薬(中国)有限公司総経理) |
| ④ 事業内容      | 眼科薬の製造・販売   |
| ⑤ 資本金       | 2億 人民元(約30億円) (注)   |
| ⑥ 設立年月日     | 2016年8月22日  |
| ⑦ 大株主及び持株比率 | 重慶科瑞製薬(集団)有限公司 51%<br>参天製薬(中国)有限公司 49%  |

(注) 1 人民元を15円として換算しています。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、以下の新たに適用する基準書を除き、前期の連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。

これらを適用したことによる参天製薬グループの要約四半期連結財務諸表への重要な影響はありません。

基準書		強制適用時期 (以降開始年度)	参天製薬グループ 適用時期	新設・改訂の概要
IAS第16号	有形固定資産	2016年1月1日	2017年3月期	減価償却の許容される方法の明確化
IAS第38号	無形資産	2016年1月1日	2017年3月期	償却の許容される方法の明確化



3. 要約四半期連結財務諸表

(1) 要約四半期連結純損益及びその他の包括利益計算書

(単位：百万円)

	注記 番号	前第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)
売上収益		97,873	97,829
売上原価		△36,501	△36,836
売上総利益		61,372	60,993
販売費及び一般管理費		△27,588	△28,738
研究開発費		△9,243	△10,304
製品に係る無形資産償却費		△2,999	△3,169
その他の収益	2	44,705	216
その他の費用		△861	△211
営業利益		65,385	18,787
金融収益		450	445
金融費用		△500	△2,206
税引前四半期利益		65,335	17,027
法人所得税費用		△21,679	△4,426
四半期利益		43,657	12,601
その他の包括利益			
純損益に振り替えられない項目：			
確定給付制度の再測定		—	—
その他の包括利益を通じて公正価値で測定 する金融資産の純変動		△263	△5,456
純損益に振り替えられる可能性のある項目：			
在外営業活動体の換算差額		112	△4,806
その他の包括利益		△150	△10,262
四半期包括利益合計		43,507	2,339
四半期利益の帰属			
親会社の所有者持分		43,657	12,601
非支配持分		—	—
四半期利益		43,657	12,601
四半期包括利益合計の帰属			
親会社の所有者持分		43,507	2,339
非支配持分		—	—
四半期包括利益合計		43,507	2,339
1株当たり四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益(円)		105.55	30.44
希薄化後1株当たり四半期利益(円)		105.06	30.32

※コアベース

売上収益	97,873	97,829
コア営業利益	24,541	22,464
コア四半期利益	16,392	16,712
基本的1株当たりコア四半期利益(円)	39.63	40.37
希薄化後1株当たりコア四半期利益(円)	39.45	40.22

(2) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2016年9月30日)
資産		
非流動資産		
有形固定資産	27,991	28,521
無形資産	83,681	100,543
金融資産	44,535	34,152
繰延税金資産	2,345	1,947
その他の非流動資産	2,109	1,765
非流動資産合計	160,660	166,928
流動資産		
棚卸資産	24,996	26,784
営業債権及びその他の債権	65,998	66,687
その他の金融資産	234	187
その他の流動資産	3,714	4,626
現金及び現金同等物	99,798	58,343
流動資産合計	194,739	156,626
資産合計	355,399	323,555

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2016年9月30日)
<b>資本</b>		
資本金	7,695	7,716
資本剰余金	8,389	8,402
自己株式	△24	△2,089
利益剰余金	221,945	230,217
その他の資本の構成要素	22,003	10,819
親会社の所有者に帰属する持分合計	260,009	255,065
資本合計	260,009	255,065
<b>負債</b>		
<b>非流動負債</b>		
金融負債	12,944	11,361
退職給付に係る負債	2,556	2,450
引当金	1,629	1,420
繰延税金負債	3,988	2,004
その他の非流動負債	1,043	933
非流動負債合計	22,161	18,168
<b>流動負債</b>		
営業債務及びその他の債務	24,504	23,745
その他の金融負債	19,881	15,598
未払法人所得税等	20,431	3,414
引当金	1,276	1,239
その他の流動負債	7,138	6,326
流動負債合計	73,230	50,322
負債合計	95,391	68,489
資本及び負債合計	355,399	323,555

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第2四半期連結累計期間(自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)

(単位:百万円)

	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素	
					確定給付制度の再測定	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動
2015年4月1日残高	7,383	8,077	△18	178,840	—	11,944
四半期包括利益						
四半期利益				43,657		
その他の包括利益						△263
四半期包括利益合計	—	—	—	43,657	—	△263
所有者による拠出及び所有者への分配						
新株の発行	190	190				
自己株式の取得			△5			
配当金				△4,959		
株式報酬取引						
その他				414		△414
所有者による拠出及び所有者への分配合計	190	190	△5	△4,545	—	△414
2015年9月30日残高	7,573	8,268	△24	217,952	—	11,268

	その他の資本の構成要素			親会社の所有者に帰属する持分合計	資本合計
	在外営業活動体の換算差額	新株予約権	合計		
2015年4月1日残高	5,000	553	17,497	211,779	211,779
四半期包括利益					
四半期利益			—	43,657	43,657
その他の包括利益	112		△150	△150	△150
四半期包括利益合計	112	—	△150	43,507	43,507
所有者による拠出及び所有者への分配					
新株の発行		△53	△53	328	328
自己株式の取得			—	△5	△5
配当金			—	△4,959	△4,959
株式報酬取引		249	249	249	249
その他			△414	—	—
所有者による拠出及び所有者への分配合計	—	197	△217	△4,387	△4,387
2015年9月30日残高	5,113	749	17,130	250,899	250,899

当第2四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)

(単位:百万円)

	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素	
					確定給付制度 の再測定	その他の包括 利益を通じて 公正価値で測 定する金融資 産の純変動
2016年4月1日残高	7,695	8,389	△24	221,945	—	18,676
四半期包括利益						
四半期利益				12,601		
その他の包括利益						△5,456
四半期包括利益合計	—	—	—	12,601	—	△5,456
所有者による拠出及び 所有者への分配						
新株の発行	21	21				
自己株式の取得		△8	△2,065			
自己株式の処分			0			
配当金				△5,384		
株式報酬取引						
その他				1,056		△1,051
所有者による拠出及び所有 者への分配合計	21	13	△2,065	△4,329	—	△1,051
2016年9月30日残高	7,716	8,402	△2,089	230,217	—	12,169

	その他の資本の構成要素			親会社の所有者 に帰属する持分 合計	資本合計
	在外営業活動体 の換算差額	新株予約権	合計		
2016年4月1日残高	2,611	716	22,003	260,009	260,009
四半期包括利益					
四半期利益			—	12,601	12,601
その他の包括利益	△4,806		△10,262	△10,262	△10,262
四半期包括利益合計	△4,806	—	△10,262	2,339	2,339
所有者による拠出及び 所有者への分配					
新株の発行		△6	△6	36	36
自己株式の取得			—	△2,073	△2,073
自己株式の処分			—	0	0
配当金			—	△5,384	△5,384
株式報酬取引		138	138	138	138
その他		△4	△1,056	—	—
所有者による拠出及び所有 者への分配合計	—	128	△923	△7,282	△7,282
2016年9月30日残高	△2,195	844	10,819	255,065	255,065

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	注記 番号	前第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
四半期利益		43,657	12,601
減価償却費及び償却費		4,511	4,837
減損損失		313	67
金融収益及び金融費用(△は益)		△261	1,611
法人所得税費用		21,679	4,426
処分グループ譲渡益	2	△44,477	—
営業債権及びその他の債権の増減(△は増加)		△3,943	△1,751
棚卸資産の増減(△は増加)		△1,915	△2,879
営業債務及びその他の債務の増減(△は減少)		2,627	△501
引当金及び退職給付に係る負債の増減(△は減少)		163	△83
その他		△3,264	△3,167
小計		19,090	15,160
利息の受取額		28	33
配当金の受取額		281	268
利息の支払額		△49	△30
法人所得税の支払額		△6,965	△20,480
営業活動によるキャッシュ・フロー		12,385	△5,049
投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の預入による支出		△22	—
定期預金の払戻による収入		22	19
投資の取得による支出		△1,963	△114
投資の売却による収入		1,310	483
子会社株式の取得による支出	1	—	△19,047
有形固定資産の取得による支出		△2,588	△2,066
有形固定資産の売却による収入		32	4
無形資産の取得による支出		△1,261	△2,751
処分グループの譲渡による収入	2	45,000	—
その他		△18	△233
投資活動によるキャッシュ・フロー		40,512	△23,705
財務活動によるキャッシュ・フロー			
長期借入れによる収入		—	3,000
長期借入金の返済による支出		△5,897	△4,825
自己株式の取得による支出		△5	△2,073
配当金の支払額		△4,954	△5,385
その他		327	43
財務活動によるキャッシュ・フロー		△10,529	△9,239
現金及び現金同等物の増減額		42,368	△37,993
現金及び現金同等物の期首残高		65,923	99,798
現金及び現金同等物の為替変動による影響		△280	△3,462
現金及び現金同等物の四半期末残高		108,011	58,343

- (5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項  
 (継続企業の前提に関する注記)  
 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	計	調整額	要約四半期 連結財務諸表	
	医薬品					
外部顧客への売上収益	96,540	1,334	97,873	—	97,873	
セグメント間の内部売上収益 又は振替高	—	329	329	△329	—	
計	96,540	1,663	98,202	△329	97,873	
セグメント利益又は損失(△) (注) 2	66,003	△618	65,385	—	65,385	
					金融収益	450
					金融費用	△500
					税引前四半期利益	65,335

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。  
 2 セグメント利益又は損失は、営業利益ベースの数値です。

当第2四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	計	調整額	要約四半期 連結財務諸表	
	医薬品					
外部顧客への売上収益	96,302	1,528	97,829	—	97,829	
セグメント間の内部売上収益 又は振替高	—	281	281	△281	—	
計	96,302	1,809	98,111	△281	97,829	
セグメント利益又は損失(△) (注) 2	19,013	△226	18,787	—	18,787	
					金融収益	445
					金融費用	△2,206
					税引前四半期利益	17,027

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。  
 2 セグメント利益又は損失は、営業利益ベースの数値です。  
 3 InnFocus, Inc.の全株式を取得し子会社化したことにより、前連結会計年度末に比べ医薬品セグメントの資産が大幅に増加しています。

(子会社株式の取得による支出)

1. 子会社株式の取得による支出

当第2四半期連結累計期間に株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

株式の取得により新たにInnFocus, Inc.を連結したことに伴う連結開始時の資産および負債の内訳ならびに株式の取得価額と取得のための支出(純額)との関係は次のとおりです。

固定資産	46百万円
のれん	21,383
流動資産	2,586
流動負債	△111
株式の取得価額	23,904
取得日直前に保有していた資本持分の公正価値	△2,349
現金及び現金同等物	△2,507
差引：取得のための支出	19,047

(注) のれんについては、評価検証が未了のため、暫定的な金額です。

(売却目的で保有する処分グループ)

2. 売却目的で保有する処分グループ

前第2四半期連結累計期間(自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)

当社は、2015年5月12日開催の当社取締役会において、当社の抗リウマチ薬に係る事業(以下、「抗リウマチ薬事業」といいます。)を、あゆみ製薬株式会社(旧 ヒュペリオンファーマ株式会社)(以下、「あゆみ製薬」といいます。)に対して承継(以下、「本事業承継」といいます。)させることを決議し、本事業承継に関し、2015年5月12日付で吸収分割契約を締結しました。当該契約に基づく吸収分割(簡易吸収分割)は2015年8月3日に完了しました。

1. 事業承継の概要

(1) 本事業承継の目的

本事業承継により、当社は眼科領域に特化し、従来にもまして専門性を高めて患者さんの高度な医療ニーズへ貢献することで、2020年までにグローバル眼科薬市場で3位以内に入ることを目指します。他方、抗リウマチ薬事業においては疾患修飾抗リウマチ薬(DMARDs)市場で国内第一位の市場シェアを有するなど、これまで確固たる市場プレゼンスを築いてまいりました。本事業承継により、当社の抗リウマチ薬事業が、整形・リウマチスペシャリティファーマを目指すあゆみ製薬に承継されることで、これまで以上に、患者さんのQuality of Life(QOL、生活の質)の向上に貢献できると考えています。

(2) 本事業承継の概要

①会社分割の相手会社

あゆみ製薬株式会社

②会社分割する事業の内容

抗リウマチ薬の販売・マーケティング、研究開発に係る事業

③吸収分割日

2015年8月3日

④本会社分割の方式

当社を分割会社とし、あゆみ製薬を承継会社とする吸収分割(簡易吸収分割)です。

⑤吸収分割に係る割当ての内容

承継会社であるあゆみ製薬は、2015年8月3日に、分割会社である当社に対して、抗リウマチ薬事業の権利義務を承継する対価として450億円の金銭を交付しました。



2. 実施した会計処理の概要

(1) 移転損益の金額

44,477百万円

(2) 移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内訳

当社が、本事業承継に基づき分割する資産、負債の帳簿価額は軽微です。

(3) 会計処理

抗リウマチ薬事業の連結上の帳簿価額と、本事業承継の対価として当社が受け取った現金との差額から、外部のアドバイザーに支払った報酬の額を差し引いた金額を移転損益としてその他の収益に計上しています。

3. 分割した事業が含まれていた報告セグメントの名称

医薬品事業

4. 要約四半期連結純損益及びその他の包括利益計算書に計上されている分割した事業に係る経営成績

売上収益 3,514百万円

(企業結合)

当第2四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)

InnFocus, Inc. の取得

(1) 企業結合の概要

①被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称: InnFocus, Inc.

事業の内容: 緑内障手術の次世代製品の開発、供給

②企業結合を行った理由

InnFocus, Inc. (以下、「InnFocus社」)は、初期から後期の原発開放隅角緑内障における眼圧下降を目的としたインプラント手術に用いるデバイスMicroShuntを開発しています。MicroShuntは諸外国で実施した臨床試験において単独もしくは白内障手術との併用で施術され、房水の流出を促すことによる眼圧下降効果が確認されています。MicroShuntは、既に欧州におけるCEマークの承認を取得しており、現在、FDA承認取得に向けPMA(Pre-Market Approval: 市販前承認)申請の最終段階の臨床試験が、米国および欧州にて実施されています。

当社は、InnFocus社の取得により、緑内障領域における製品パイプラインのさらなる強化に取り組み、眼科領域のイノベーションをリードする存在であり続けたいと考えています。また、当社は『世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー』を長期的な経営ビジョンとして掲げており、グローバルな眼科領域においてさらなる治療貢献を目指してまいります。MicroShuntは新たな治療選択肢として、患者さんに大きな治療効果をもたらすことができると期待しています。

③取得日

2016年8月19日(米国時間)

④被取得企業の支配の獲得方法

InnFocus社に対して、現金を対価として議決権付株式を100%取得しています。

また、契約上、MicroShuntの開発の進捗および販売実績に応じたマイルストーンを支払う定めがあります。

⑤取得した議決権付資本持分割合

取得前の議決権付資本持分割合 9.56%

取得日に追加取得した議決権比率 90.44%

取得後の議決権付資本持分割合 100.00%

(2) 取得資産及び負債の公正価値、取得対価の内訳

(単位：百万円)

	暫定的な公正価値
固定資産	46
その他の流動資産	79
現金及び現金同等物	2,507
流動負債	△111
のれん	21,383
合計	23,904
現金	21,554
既存持分の公正価値	2,349
取得対価合計	23,904

これらの金額は、要約四半期連結財務諸表の作成時点において、評価検証が未了のため、暫定的な金額で報告しています。

当該企業結合に係る取得関連費用とし538百万円を「販売費及び一般管理費」に計上しています。

(3) 条件付対価

企業結合による条件付対価は、主としてMicroShuntの開発の進捗および販売実績に応じたマイルストーンであり、当社が条件付対価契約に基づき要求されうるすべての将来の支払額は409百万米ドル（割引前）です。

条件付対価の公正価値ヒエラルキーのレベルはレベル3です。

なお、条件付対価の公正価値評価は未了です。

(4) 参天製薬グループの業績に与える影響

要約四半期連結純損益及びその他の包括利益計算書に含まれる取得日以降のInnFocus社の業績は以下のとおりです。

売上収益 : 一百万円

税引前四半期利益 : △134百万円

当企業結合が期首に実施されたと仮定した場合の当第2四半期連結累計期間の要約四半期連結純損益及びその他の包括利益計算書に与える影響額は以下のとおりです。（非レビュー情報）

売上収益 : 一百万円

税引前四半期利益 : △594百万円

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4. 連結参考資料

(1) 主要製品売上収益

(単位：百万円)

品目名 (有効成分・剤型)	薬効成分	地域	2016年3月期				2017年3月期			
			第2四半期 累計実績	対前年 伸長率	通期 実績	対前年 伸長率	第2四半期 累計実績	対前年 伸長率	通期 見込	対前年 伸長率
クラビット点眼液 (レボフロキサシン点眼液)	合成抗菌 点眼剤	合計	8,032	16.5%	14,250	6.4%	6,914	△13.9%	11,437	△19.7%
		日本	3,280	△6.6%	5,918	△8.9%	2,601	△20.7%	4,439	△25.0%
		アジア	4,058	49.9%	7,001	29.1%	3,704	△8.7%	5,689	△18.7%
		欧州	694	2.9%	1,331	△10.0%	610	△12.2%	1,309	△1.6%
タリビッド点眼液 (オフロキサシン点眼液)	合成抗菌 点眼剤	合計	1,086	13.0%	1,761	△7.8%	858	△21.0%	1,348	△23.5%
		日本	374	△10.4%	673	△11.7%	312	△16.8%	422	△37.3%
		アジア	712	31.0%	1,088	△5.2%	547	△23.2%	926	△14.9%
		欧州	-	-	-	-	-	-	-	-
タブコム配合点眼液 (タフルプロスト/ チモロールマレイン酸塩点眼液)	緑内障 治療剤	合計	637	-	1,534	302.3%	1,282	101.4%	2,283	48.8%
		日本	561	-	1,381	303.3%	1,116	99.0%	1,734	25.6%
		アジア	-	-	-	-	12	-	7	-
		欧州	76	-	153	292.8%	155	103.1%	541	253.4%
タブロス点眼液 (タフルプロスト点眼液)	緑内障 治療剤	合計	7,729	32.4%	15,633	26.8%	8,186	5.9%	17,030	8.9%
		日本	4,613	18.2%	9,168	10.1%	4,961	7.5%	10,285	12.2%
		アジア	550	38.5%	1,097	34.3%	570	3.6%	1,251	14.0%
		欧州	2,566	67.0%	5,368	68.6%	2,654	3.5%	5,487	2.2%
		その他	-	-	-	-	-	-	7	-
コソプト配合点眼液 (ドルゾラミド塩酸塩/ チモロールマレイン酸塩点眼液)	緑内障 治療剤	合計	9,804	86.6%	20,583	65.0%	11,176	14.0%	21,610	5.0%
		日本	5,705	8.9%	11,214	4.9%	5,887	3.2%	11,719	4.5%
		アジア	1,269	-	2,493	179.6%	1,303	2.7%	2,381	△4.5%
		欧州	2,830	-	6,876	666.4%	3,986	40.9%	7,451	8.4%
		その他	-	-	-	-	-	-	59	-
チモプトール点眼液 (チモロールマレイン酸塩点眼液)	緑内障 治療剤	合計	1,032	88.3%	1,930	52.3%	845	△18.1%	1,414	△26.7%
		日本	637	16.3%	1,182	△2.8%	522	△18.0%	902	△23.7%
		アジア	74	-	140	380.8%	63	△14.5%	118	△15.6%
		欧州	321	-	608	-	260	△19.1%	393	△35.3%
チモプトールXE点眼液 (チモロールマレイン酸塩持続性点眼液)	緑内障 治療剤	合計	1,296	50.0%	2,463	24.1%	1,173	△9.5%	2,411	△2.1%
		日本	998	15.6%	1,886	△1.6%	867	△13.1%	1,558	△17.4%
		アジア	45	-	87	221.9%	41	△8.0%	81	△6.9%
		欧州	253	-	489	-	265	4.7%	772	57.7%
トルソプト点眼液 (ドルゾラミド塩酸塩点眼液)	緑内障 治療剤	合計	2,193	469.0%	4,561	146.2%	2,159	△1.6%	3,647	△20.0%
		日本	1,132	194.0%	2,125	37.6%	914	△19.2%	1,533	△27.9%
		アジア	296	-	446	706.0%	137	△53.8%	240	△46.1%
		欧州	765	-	1,990	688.7%	1,108	44.8%	1,863	△6.4%
		その他	-	-	-	-	-	-	11	-
デタントール点眼液 (ブナソシン塩酸塩点眼液)	緑内障 治療剤	日本	594	△2.9%	1,117	△9.1%	562	△5.3%	1,060	△5.1%
レスキュラ点眼液 (イソプロビルウノプロスト点眼液)	緑内障 治療剤	日本	967	△0.6%	1,845	△4.7%	870	△10.0%	1,666	△9.7%
アレジオン点眼液 (エピナスチン塩酸塩点眼液)	抗アレルギー 点眼剤	日本	2,745	75.6%	9,483	41.6%	4,066	48.2%	11,741	23.8%
フルメトロン点眼液 (フルオロメトロン点眼液)	抗炎症 点眼剤	合計	2,015	3.5%	3,775	△0.9%	1,781	△11.6%	3,277	△13.2%
		日本	1,287	△3.3%	2,655	△6.6%	1,104	△14.2%	2,219	△16.4%
		アジア	728	18.2%	1,120	15.8%	677	△7.0%	1,057	△5.6%
カリーユニ点眼液 (ピレノキシン点眼液)	老人性白内障 治療剤	合計	2,268	13.8%	4,187	7.1%	2,120	△6.5%	4,051	△3.2%
		日本	1,495	1.5%	2,900	△0.3%	1,502	0.4%	2,835	△2.2%
		アジア	773	48.8%	1,287	28.6%	618	△20.0%	1,216	△5.5%
オベガンハイ眼粘弾剤 (ヒアルロン酸ナトリウム眼科手術補助剤)	眼科手術 補助剤	日本	1,335	3.4%	2,568	△0.2%	1,187	△11.1%	2,318	△9.7%
アイリーア硝子体内注射液 (アフリベルセプト(遺伝子組換え) 硝子体内注射液)	眼科用VEGF 阻害剤	日本	19,575	84.2%	39,988	60.7%	22,820	16.6%	45,688	14.3%
ヒアレイン点眼液 (ヒアルロン酸ナトリウム点眼液)	角結膜疾患 治療剤	合計	10,407	5.4%	19,864	1.3%	9,308	△10.6%	15,680	△21.1%
		日本	7,576	△1.8%	14,491	△5.4%	6,256	△17.4%	10,457	△27.8%
		アジア	2,832	31.4%	5,372	25.1%	3,052	7.8%	5,223	△2.8%
ジクアス点眼液 (ジクアホルソナトリウム点眼液)	角結膜疾患 治療剤	合計	4,576	27.3%	9,631	22.0%	5,795	26.6%	13,357	38.7%
		日本	4,232	24.8%	8,880	19.7%	5,403	27.7%	12,313	38.7%
		アジア	344	68.6%	751	57.7%	391	13.7%	1,043	38.9%
Ikervis(アイケルビス) (シクロスポリン点眼液)	角結膜疾患 治療剤	欧州	159	-	751	-	452	185.2%	1,922	155.8%
Cationorm(カチオノーム)	角結膜疾患 治療剤	合計	536	104.7%	1,453	77.3%	755	40.9%	2,267	56.1%
		アジア	65	154.0%	167	89.6%	83	27.1%	258	54.6%
		欧州	427	111.3%	1,029	75.7%	619	44.9%	1,712	66.4%
		北米	41	29.9%	242	68.9%	44	△8.1%	243	0.5%
		その他	2	△5.2%	14	493.7%	8	270.9%	53	268.9%
一般用医薬品		合計	4,906	51.0%	11,004	64.1%	6,087	24.1%	13,849	25.9%

※上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。

(2) 医薬品開発状況

■ 医薬品開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	開発コード	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
タフルプロスト	DE-085	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	中国						2016年3月
プロスタグランジンF <sub>2</sub> α誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。2008年12月以降、日本や欧米で発売。アジアでは香港、韓国、インドネシア、シンガポール等で発売。2016年3月、中国にて発売。										
ジクアホソルナトリウム	DE-089	ドライアイ	Merck Sharp & Dohme Corp. (米国)	中国 アジア				2012年1月		2016年2月
角結膜上皮からムチンや水分の分泌を促すドライアイ治療剤。既存薬と異なる作用機序を持つ。2010年12月、日本にて発売。2013年10月、韓国にて発売。2012年1月、中国で輸入医薬品承認を申請中。2016年2月にベトナムにて、2016年4月にタイにて発売。アジアで順次販売承認を申請。										
ロメリジン塩酸塩	DE-090	緑内障	MSD	日本						
視野欠損の進行抑制作用を有する新しい緑内障治療剤。カルシウム拮抗作用に基づく経口緑内障薬としては、唯一の開発薬剤。NMDA受容体拮抗剤と異なり、全身性の副作用が軽微であり、高い安全性を有する。										
シロリムス	DE-109	ぶどう膜炎	自社	米国 日本 欧州 アジア						2015年4月
免疫抑制作用、血管新生抑制作用などを有する硝子体内注射剤。米国でフェーズ3試験の最終被験者の来院(LPO: Last patient out)が完了。2015年4月、アジアで販売承認を申請。2016年5月、欧州医薬品庁への医薬品販売承認申請を取り下げ、今後改めて申請する予定。										
タフルプロスト/ チモロールマレイン酸塩	DE-111	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	韓国 アジア						2016年4月 2016年3月
プロスタグランジンF <sub>2</sub> α誘導体およびβ遮断剤の配合剤。2014年11月、日本で発売。欧州において、2014年10月に販売承認を取得し、2015年1月以降、順次発売。2016年4月、韓国にて発売。アジアで順次販売承認を申請しており、タイ等にて販売承認取得。										
omidenepeg isopropyl	DE-117	緑内障・高眼圧症	宇部興産と 共同開発	米国 日本						(フェーズ2b/3)
新規メカニズムのEP2受容体作動薬。2015年2月、米国でフェーズ2b試験を終了。2015年12月、日本でフェーズ2b/3試験を開始。韓国、アジアにてフェーズ3試験を準備中。										
タフルプロスト	DE-118	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	アジア						2016年4月
プロスタグランジンF <sub>2</sub> α誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。防腐剤を含まない、1回使い切りタイプの製剤。2013年10月、日本で発売。2015年6月以降、香港などで販売承認を取得し、その他のアジアで順次、販売承認を申請。2016年4月以降、シンガポール等にて発売。										
未定	DE-120	滲出型加齢黄斑変性	自社	米国						
VEGFおよびPDGFの阻害作用(デュアル阻害剤)を有する硝子体内注射剤。2015年4月、米国でフェーズ2a試験を開始。										
未定	DE-122	滲出型加齢黄斑変性	TRACON社	米国						(フェーズ1/2)
抗エンドグリン抗体の硝子体内注射剤。2015年9月、米国でフェーズ1/2試験を開始。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
sepetaprost	DE-126	緑内障・高眼圧症	小野薬品工業	米国	(フェーズ2a)					
FP受容体およびEP3受容体への作動作用(デュアル作動薬)を有する新規メカニズムのプロスタグランジン誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。米国にてフェーズ2b試験を準備中。										

一般名	開発品名	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
シクロスポリン	Cyclokot	ドライアイに伴う重度の角膜炎	自社	欧州	2015年7月					
				米国						
				韓国	2015年12月					
				アジア	2015年11月					
免疫抑制作用により、ドライアイに伴う重度の角膜炎を改善する乳化点眼剤。カチオン性製剤技術により組織移行性を高めた製剤。2015年7月、ドイツおよびイギリスにて販売し、欧州で順次発売。アジアで2015年11月より順次販売承認を申請。2015年12月、韓国で販売承認を申請。										

一般名	開発品名	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
シクロスポリン	Vekacia	春季カタル	自社	欧州						
免疫抑制作用により、春季カタルの症状を改善する乳化点眼剤。カチオン性製剤技術により組織移行性を高めた製剤。2016年3月、欧州にてフェーズ3試験を終了。										

一般名	開発品名	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ラタノプロスト	Catioprost	緑内障・高眼圧症	自社	欧州						
プロスタグランジンF <sub>2α</sub> 誘導体の緑内障・高眼圧症治療用乳化点眼剤。										

一般名	開発品名	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
デキサメタゾン パルミチン酸エステル	Cortiject	糖尿病黄斑浮腫	自社	欧州	(フェーズ1/2)					
抗炎症作用を有する硝子体内注射剤。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
-	DE-128 (InnFocus MicroShunt)	緑内障	自社	米国						
-				欧州						
2016年8月、InnFocus MicroShuntを開発するInnFocus社を買収。原発開放隅角緑内障における眼圧下降を目的とし、房水の流出を促すインプラント手術用デバイス。										

■2016年度第1四半期決算発表時(2016年8月2日)からの変更点

開発コード / 品名	変更点
DE-126	米国にて、フェーズ2b試験を準備中。
DE-128/InnFocus MicroShunt	2016年8月、InnFocus MicroShuntを開発するInnFocus社を買収。

(3) 設備投資、減価償却費及び償却費、製品に係る無形資産償却費ならびに研究開発費

■設備投資

(単位：百万円)

	2016年3月期		2017年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期見込
設備投資額	1,793	4,474	2,864	7,070

■減価償却費及び償却費

(単位：百万円)

	2016年3月期		2017年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期見込
総額	1,512	3,133	1,667	3,500
製造経費	684	1,445	728	1,590
販売管理費	513	1,035	601	1,250
研究開発費	315	653	338	660

(注) 製品に係る無形資産償却費および長期前払費用の償却費は除いています。

■製品に係る無形資産償却費

(単位：百万円)

	2016年3月期		2017年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期見込
総額	2,999	6,205	3,169	7,050
メルク無形資産償却費	2,581	5,186	2,645	5,310
アイケルビス無形資産償却費	255	625	336	660
その他	163	394	188	1,080

■研究開発費

(単位：百万円)

	2016年3月期		2017年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期見込
研究開発費	9,243	19,990	10,304	20,400
対売上収益比	9.4%	10.2%	10.5%	10.2%

なお、上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。